

<本年度の学校教育目標>

伸びよ 豊かに たくましく ~ 大屋に学び、豊かな心で伸びやかに 未来への道を切り拓こうとする活力の育成 ~

<学校自己評価結果>

( 良好 概ね良好 やや努力を要する 一層の努力を要する )

<学校関係者評価>

分野	取組内容	達成状況	取組状況・改善の方向性	学校自己評価を踏まえた学校の教育活動への意見
小中一貫教育の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまづき解消等のため、学年間、校種間の学習の系統性を重視して指導にあたっている。</li> <li>合同研修など、連携・協働体制の中で教育課題の解決に努めている。</li> <li>PTAや地域の諸会議・諸事業の工夫により、家庭・地域との緊密な連携に努めている。</li> </ul>	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の二極化、家庭学習の習慣が定着しないことが課題。小学校と問題意識は共有できていないため、研修の効果的な実施や「家庭学習の手引き」の活用等に今後も取り組んでいきたい。</li> <li>昨年度に引き続き、外部から講師を招聘し、公開授業をもとに道徳の授業研修(2回)を実施できたことは効果的であった。来年度も継続して取り組む。</li> <li>コロナ禍の影響により、PTA総会の書面決議、1回だけの資源回収、人権学習会の中止など、例年ない対応が求められた。引き続き、感染状況等に応じて適切に対応したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中相互の乗り入れの試みも多く実施され、道徳教育の授業研修を合同で開催し、共通認識を図られていることなど、成果が上がっていると思います。今後においても発展的に取り組まれます。</li> </ul>
いじめ防止対策に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校いじめ防止基本方針に基づき、定期的なアンケート調査や教育相談の実施等により、いじめの積極的認知に取り組み、解決にあたっている。</li> <li>対応チームを中心に組織的に対応し、さらに実効性のある「学校いじめ防止基本方針」となるよう見直しを行っている。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍による生徒への影響に気配りしながら、毎週の生徒指導部会で状況を共通理解し、丁寧かつ迅速な生徒指導にあたることができた。</li> <li>は毎年度見直しをしている「学校いじめ防止基本方針」であるが、来年度は、コロナ禍の影響もひとつの観点として見直しをしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により学校生活もいろいろな制約を受け、生徒もストレスを感じることも多い状況だったのではないかとと思う。さらに生徒の些細な変化を見逃さず、全教職員が連携し情報共有しながら対応していきたい。</li> <li>文化祭でSNSによるいじめの悲惨さについて劇をしたことがあり、それにより意識の浸透が図られたと思う。子ども達自身がじっくり向き合う時間が与えられたら良いと思う。</li> </ul>
勤務時間の適正化に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録簿により自らの勤務時間を的確に把握し、計画的で効率的な業務の遂行と健康管理に努めている。</li> <li>個人情報の保護等、適正な情報管理を図るとともに、校務の効率化に努めている。</li> </ul>	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録簿を適正に作成することにより、出退勤時刻を意識した業務の推進にあたることができた。</li> <li>昨年度の各分掌の取組状況を踏まえて分掌の再編成を行ったが、コロナ禍の影響により、分掌表に基づく計画的な遂行よりも柔軟な遂行を求めることが多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はコロナ禍により柔軟な対応が求められる中、大変だったと思う。教育の質の担保と、教職員の生活の充実のバランスを保ちながら、今後も更なる適正化を図っていただきたい。</li> </ul>
体罰防止に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>体罰や威圧的な言動はあってはならないという認識を持ち、指導にあたっている。</li> <li>非違行為は社会的信用・信頼を損ない、生徒への影響も大きいことから、注意し合い、職責を自覚して行動を律している。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞等で報道される事案や国・県からの通知に基づき、職員会議や職員研修等の機会を活用して、常日頃から市民並びに教育公務員としての自覚を促している。特に、少人数の職員規模を生かして、「こまめに話ができる職員集団」づくりを図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣で生じた事案に驚愕している。風通しのよい、何でも発言ができる職員会議、課題を一人で抱え込まない情報共有など、学校運営に引き続き尽力願いたい。例年ないことも多く、激務となることもあるかもしれませんが、健康に留意されたい。</li> </ul>
家庭との連携に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりや学年通信、ホームページや、PTA・地域の諸事業を通して、家庭や地域との情報共有や連携に努めている。</li> <li>学校だけでなく、地域の中でも気持ちの良いあいさつができるよう、家庭と連携しながら取り組んでいる。</li> <li>「そうあんの日」を通して、自らの生活をよりよくしようとする態度を育成している。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりについては、保護者版と地域版を作成し、毎月発行した。ホームページの更新もこまめに行い情報共有を図った。学校行事の実施等、保護者や地域の方々は協力的である。</li> <li>生徒の挨拶が外来者や地域の方々から好評である。本校のよき習慣であり伝統である。生徒会の月間目標を草庵先生の言葉と関連させて設定したものの、そのことについて生徒の自覚を高められなかった。「そうあんの日」の取組とも関連づけて自覚を高めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校からの発信はよくされており、特に学校だよりの地域版の回覧は、地域との連携にとっても有効であり、生徒のいない地区の高齢世帯との架け橋となっております。継続をお願いしたい。</li> <li>地域で生徒に出会うと、いつも大きな声で気持ちの良いあいさつしてくれるので、こちらもうれしくなる。よき習慣を今後も継続させてほしい。</li> </ul>
【新】新型コロナウイルス感染症への取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルを踏まえ、生徒の健康状態の把握のため健康観察を実施し、マスクの着用、手洗い、手指消毒、換気の励行など教育活動全体を通して感染症対策に取り組んでいる。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、予防についての啓発を図るなど家庭と連携した取組を進めている。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の動きを注視しながら、正しい知識を身につけ、差別・偏見・いじめ・誹謗中傷などの防止に努めている。</li> <li>コロナ禍で例年と異なる教育活動の推進が求められる中、教育効果を考慮しながら、活動内容と取組方法等について、工夫を図っている。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染予防や拡大防止に向けた取組の目的を生徒と共有しながら、継続的に根気強く取り組むことができた。また、保護者に対しても、学校だよりや保健だよりを通じてこまめに協力依頼を行い、啓発に努めた。</li> <li>道徳の授業を中心に、感染症に対する誹謗中傷等に関する実際の事例を取り扱いながら、偏見に基づく差別は決して許されるものではないことや、不安による負のスパイラルを防ぐための適切な行動について学習を深めた。</li> <li>自粛が萎縮につながらないように、生徒の成長のために必要なことを整理した上で、教育活動を可能な限り実施してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染防止の取組は、目に見えないものの戦いであり、例年の教育活動ができない中、対策方法に苦労されたことと思う。収束まで引き続きの取組をお願いしたい。</li> <li>授業時数の確保だけでなく、修学旅行やトライやる・ウィーク、体育祭や文化祭などの行事も多々調整いただき実施いただいたこと感謝している。感染予防や拡大防止対策として、検温や消毒など新たな業務にも対応いただき、感謝している。</li> </ul>

「確かな学力」の育成	学力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟の程度に応じた指導や補充的・発展的な学習を取り入れるなどきめ細かな指導方法を工夫している。</li> <li>繰り返し学習や「進捗タイム」、家庭学習の適切な設定等により、基礎・基本の着実な定着を図っている。</li> <li>生徒の思考・判断・表現の過程を重視し、「考えを深める」「発表する」「書く」等の活動の指導を工夫している。</li> </ul>	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査、市による学力・学習状況調査がコロナ禍の影響により中止となった。個々の生徒の学習内容の定着にばらつきが大きく、習熟の程度に応じた指導や学習形態の工夫が一層求められる。また、じっくりと考えてノートに自分の意見や考えを書く場面の確保など、授業の展開の工夫も求められる。</li> <li>家庭での学習習慣の定着が課題。小中一貫教育推進の観点から小学校と連携し、「家庭学習の手引き」を作成して啓発を図るなどの取組を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の上位層と下位層に隔たりがあり、平均層が薄い傾向になると聞く。下位層の下支えと引き上げが必要とされるが、保護者アンケートの結果からも家庭学習の時間が少ないことが気になる。さらに保護者との連携に努められたい。</li> <li>教育内容が多岐にわたり、過密なカリキュラムの中ですべての生徒の基礎学力の定着に努力いただいていることを感じる。家庭学習の習慣化に引き続き努力いただきたい。</li> </ul>
	国際理解を深めるための教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語を用いた日常的なふれあいや対話を通して、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。</li> <li>日本や郷土の伝統や文化を学び、国際的視野に立って主体的に行動しようとする態度を育成している。</li> </ul>	やや努力を要する	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の授業に楽しく参加できる生徒が多く、ALTを交えた活動にも能動的に関わっていくことができる。ただ、国際交流をする機会が全くなく、国際的な視野を広げることが困難な状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTによる楽しい関わりを大切にしながら、英語教育はもとより、国際理解教育に幅を持たせるためにも、引き続きALTとの連携に努められたい。</li> </ul>
	理数教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の力を養う観察・実験、意見交換や議論する場を積極的に設けて探究活動等に取り組んでいる</li> <li>外部と連携した実験の演示や特別授業を通して、生徒の理科、数学への興味・関心を高めている。</li> </ul>	やや努力を要する	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において、積極的に大型モニターやICTを活用することにより、図式や実験等を具体的に示して理解を深める工夫を図っているが、自分自身で課題をもって筋道立てて解決にあたらうとする姿勢を培うためにも、理数への興味・関心を高める取組が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や課題、ゲーム等の時間により、日常的にゆとりがない中、なかなか自分で何かを調べて取り組む時間がとれないように思う。興味・関心が高まる内容を設定し、ある程度の期間の中で学びをまとめさせるような工夫も必要ではないか。</li> </ul>
「豊かな心」の育成	情報活用能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員のICT活用指導力や情報モラル指導力向上のため、計画的で実践的な校内研修を実施している。</li> <li>効果的にICTを活用する学習活動を通じて、情報活用能力の育成を図っている。</li> <li>SNS等に関連する新しい情報を家庭と共有しながら、利用に関するルールづくり等、生徒の自主的・主体的な取組を促している。</li> </ul>	やや努力を要する	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA主催で開催した「情報モラル研修会」では親子でスマホを持って参加し、実際の事案をもとに、利便性に潜む危険性について認識するとともに、トラブルを回避するための設定等の方法を学んだ。</li> <li>SNS等の使用に関する小中合同の実態調査の結果を踏まえて、「SNS・ゲームの使用の3本柱」を新たに策定し、この啓発に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でテレワークやリモートなどがより身近なものとなって中、情報活用能力の育成がさらに求められる。一方で、SNSでのやり取りやゲーム、動画の閲覧などに時間をとられ、家庭学習の時間が少なくなったり、誹謗中傷などの差別行為につながったり、犯罪に巻き込まれるなどの危険性もあることから、今後も、利用に関するルールを守るという自己管理意識を高める取組をお願いしたい。</li> <li>「情報モラル研修」は親子ともに有意義である。情報へのアクセスも大事だが、情報に振り回されないように取捨選択する力の育成も必要である。</li> </ul>
	体験教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア形成に向け、教科等と関連付けた指導計画を作成し、活動意欲や目的意識を高める事前指導等に取り組んでいる。</li> <li>地域の人々と協力し合う場を設けることにより、地域とのつながりを深め、ふるさとを愛する心を育てている。</li> <li>体験活動を通して学んだことをその後の生活や学習にいかすための事後指導に取り組んでいる。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やぶ・ふるさとキャリア教育」の推進とキャリアノートの活用を一体的にとらえながら、体験的な活動の実施に積極的に取り組んでいる。学びの連続性を図るためにも、生徒とともにねらいを共有しながら取り組んでいく必要がある。</li> <li>コロナ禍であったが、「やぶ・ふるさとキャリア教育」による特別授業や地域での体験活動を実施することにより、地域の方々とのふれあう機会が増し、地域の方々との日常的なかかわりにつながる実践にもなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験教育は、身近なところで実践している姿を見ることが、直接話を聞いて学習を深めることが重要であり、引き続き「やぶ・ふるさとキャリア教育」として、地域の特色を活かした取組を進めていってほしい。</li> <li>「加保坂46プロジェクト」で大屋にゆかりのある方を講師として招聘した特別授業や地域での体験活動を積み重ねていくことは生徒の成長にとって欠かせない効果のある取組であると評価している。</li> <li>トライやる・ウィークが短期間でも実施できてよかった。学校や事業所の方々に感謝する一方、単なる体験で終わらせないためにも、働く意味や責任感を学ぶ上で、やはり1週間という期間が非常に大事であることが改めてわかった。</li> </ul>
	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題への関心を高め、環境保全に向けた責任と役割を理解し、主体的に行動する力を育成している。</li> </ul>	やや努力を要する	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会科や理科等で環境問題については学習しているものの、例えばSDGsの取組として包括的に取り組んでいくには、時間数の確保等の工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機栽培農法や食べ残し0の食育、廃油回収等の身近な取組や、地域の放置山林の状況等に目を向けて、環境教育を進めていくこともできるのではないかと。</li> </ul>
	ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の伝統文化・芸能、歴史や産業、建造物に触れる機会を設け、理解を深める活動に取り組んでいる。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やぶ・ふるさとキャリア教育」の取組の一環として積極的に取組を進めている。社会科との学習とも関連させながら、さらに関心を高め、理解を深めさせていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の祭礼や諸行事にも積極的に参加し、引き続き、地域からいろいろなことを学んでいってほしい。</li> </ul>
道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な授業力の向上のため、指導方法を研究したり、「対話」のある授業研究に努めている。</li> <li>道徳科における生徒の学習状況や成長の様子を適切に評価できるよう、評価の在り方について研究を深めている。</li> <li>道徳の授業を公開し、学校の道徳教育について家庭や地域の理解を得たり、副読本の活用など家庭との連携に努めている。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍ではあったが、道徳の授業については、小中合同の研修会を2回開催し、外部から講師を招聘した授業研究を行い、日頃の授業実践に活かした。また、昨年度に引き続き、評価に関する研修もを行い、実践に活かした。</li> <li>2ヶ月にも及ぶ臨時休業により、例年行っている道徳の教科書や「兵庫版道徳教育副読本」を家庭で読んでいただき保護者に感想をいただく機会を逸してしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育は、自他の大切さを定着させる上で基本となるものである。また、人権意識を高めることは、自分自身の幸せにもつながるものであり、生徒がさらに身近なものとして実感できるような授業展開を今後も研修を通して工夫していただきたい。</li> </ul>	

＜本年度の学校教育目標＞

伸びよ 豊かに たくましく ～ 大屋に学び、豊かな心で伸びやかに 未来への道を切り拓こうとする活力の育成 ～

＜学校自己評価結果＞

( 良好 概ね良好 やや努力を要する 一層の努力を要する )

＜学校関係者評価＞

「豊かな心」の育成	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権教育の全体計画等を作成し、いじめやSNS等による今日的な人権課題について、教育活動全体を通して取り組んでいる。</li> <li>○ 同和教育の成果をいかし、今日的な人権課題に取り組むため、人権意識と指導力を高める校内研修を実施している。</li> <li>○ 生徒の自尊感情を高め、主体的・実践的な人権学習を進めるため、資料の活用や体験活動など指導方法を工夫している。</li> </ul>	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県による「新たな課題に対応した人権教育研究事業」に取り組み、校内研修を踏まえて、特別活動や総合的な学習の時間、道徳を中心に学習活動を展開した。特にSNS等を巡る人権問題については、道徳や技術科の授業での学習内容とPTA事業での親子研修会での実習内容とを関連付けて、人権の観点から問題意識を高めた。</li> <li>○ コロナ禍の影響により、例年実施しているPTAの人権学習会が開催できなかったことは残念であり、来年度はぜひ実施できればと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめやヘイトスピーチなど今日的な人権課題が生じる中、人権教育は最も重要な教育。人権意識が低いと不適切な情報等に引っ張られ、様々な差別を助長させてしまう恐れがある。生徒たちが人権教育を通して正しい知識と生き方が学べる指導を積極的に展開していただきたい。</li> <li>○ 本年度はPTA人権講演会が中止となったが、昨年度は異なる環境の中で育った外国の方の話を聞くなど、非常に有効だったと思うので、来年度も実施について工夫をお願いしたい。</li> </ul>
	防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災教育指導計画のもと、各教科や体験活動等を通して、災害から自分の命を守るため主体的に行動する力を育成している。</li> <li>○ 災害対応マニュアルを見直しながら、市の関係課や消防署、家庭や地域住民等と連携した防災訓練を実施している。</li> </ul>	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 予告なしの避難訓練などを通して、状況に応じて主体的に行動する意識が高められたが、自助と共助の在り方についての学習など、さらなる工夫も必要である。</li> <li>○ コロナ禍の影響により、自治協議会等との連携による「地域貢献リーダー養成講座」が開催できなかったことが残念であり、来年度は同企画を確実に実施できればと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大屋は90%が山林で、木材価格の低迷や燃料としての活用も少なくなったことなどから、手入れや伐採が行われずに放置されたままである。そのため、豪雨により土砂崩れや河川への流出が生じ、災害の要因となっている状況も防災教育の一環として学べないか。</li> </ul>
「健やかな体」の育成	体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動の楽しさや喜び、健康の大切さを実感できるよう、個人差を踏まえた段階的な指導方法等を工夫している。</li> <li>○ 体力・運動能力等の改善に向けた活動を継続的に行うとともに、家庭との連携による運動習慣の定着に取り組んでいる。</li> </ul>	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 筋力、筋持久力、持久力に課題があり、改善に向けて体育の授業や部活動での共通した取組を実施している。また、運動を好む生徒の割合が全国よりもやや低い傾向にあるため、家庭に啓発しながら、運動への興味・関心を高めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍において、成長期にある中学生にとって運動の機会が少なく大変心配した。宿題や部活動の一環として、帰宅後でもできるトレーニングを課してもいいのではないかと。</li> </ul>
	食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調理実習や栽培等の体験活動を通じて、地域の産業や自然、食文化について理解を深める活動に取り組んでいる。</li> </ul>	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 栄養教諭と連携し、日々の給食を通じて食に関する情報を伝えている。朝食を食べずに登校する生徒の割合が高くなってきており、食べることの大切さについての指導も図ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝食の欠食者が増加しているようであるが、体力の保持や学習への集中力の欠如にもつながることも心配されるため、保護者の状況を把握しながら改善を図りたい。</li> </ul>
	健康教育・安全教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地域安全マップ」の活用など、日常的に危険を予測し、的確に判断・行動する意識の高揚に向けた指導を行っている。</li> <li>○ 薬物乱用防止教室の実施等を通して、薬物の健康への影響を認識させ、誘惑に負けない行動ができるよう指導している。</li> <li>○ 性に関する科学的知識や異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重した行動がとれるように指導している。</li> </ul>	やや努力を要する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PTA事業により作成した「地域安全マップ」を活用し、日常的に危機意識を高める働きかけを行った。</li> <li>○ コロナ禍の影響により、「薬物乱用防止教室」が中止となったため、薬物に関する学習が保健体育での学習のみとなった。</li> <li>○ 性教育については、昨年度に小中合同で作成した年間指導計画に基づいて実践に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「薬物乱用防止教室」などを通じて、薬物に対する正しい理解が身を守ることにつながることを理解させてやってほしい。性教育に関する取組も同様であり、きちんと学習の機会を設けていただいていることはありがたい。</li> <li>○ 「薬物乱用防止教室」は、次年度はぜひ開催してほしい。</li> </ul>
キャリア教育	体系的・系統的な推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャリア教育の全体計画を作成し、「総合」や特別活動を中心とした教育活動全体でキャリア教育に取り組んでいる。</li> <li>○ キャリア教育指導資料を参照しながら「キャリアノート(ファイル)」の積極的な活用に取り組んでいる。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「やぶ・ふるさとキャリア教育」を推進しながらキャリアノートを蓄積している。本年度は、校種間をつなぐ「キャリアバスポート」の作成に向けて小中合同の研修会を通して取組の具体化を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「加保坂46プロジェクト」などを通して、地域とのつながりが有効に果たしていると思う。大屋にゆかりのある方を講師として招聘した特別授業や地域での体験活動を今後も継続して取り組んでほしい。</li> <li>○ 小学校からの取組を継続した長期にわたる取組です。成人してから就労し、勤勉に働き、社会の一員としての役割を果たせるように、今後も、働くことの大切さやつらさ、尊厳などを学べる機会を設けて、生徒の自覚を促してほしい。</li> <li>○ 社会性を身に付けるため、上級生は下級生の手本となることで成長し、下級生は上級生を見習い成長する関係を身に付けさせてほしい。</li> <li>○ 挨拶についてはTPOも大事で、少なくとも学校内や地域行事は徹底し、休日見知らぬ人への挨拶は犯罪に巻き込まれないように分別ももたせてやってほしい。</li> </ul>
	社会とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外部と連携して地域の産業等に目を向ける機会を設け、社会と自分のかかわりを認識させる活動に取り組んでいる。</li> <li>○ 各教科や生徒会活動、学校行事等において、社会の一員としての自覚や社会参画への意欲・態度を養う取組を進めている。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「やぶ・ふるさとキャリア教育」による特別授業や地域での体験活動の実施により、地域を見つめる有意義な機会となっている。また、こうした機会を通して、各地区での活動への参加を促し、地域の方々とふれあう機会が増し、あいさつなど日常的なかかわりにつながる実践にもなっている。</li> </ul>	
特別支援教育	連続性のある多様な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別の教育支援計画や個別の指導計画は、指導内容や方法の工夫を検討するため、必要に応じて見直しを図っている。</li> <li>○ 多様性やUDへの配慮の観点から、発達障害等に関する基礎的な知識・技能の習得と指導力の向上に努めている。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の実態に応じた「自立活動」の工夫等、今年度で作成された養父市内共通の様式に基づいた計画の作成を通じて効果的な指導を図ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達障害という言葉を聞くようになってから久しい。通常学級においても特別な配慮を要する生徒が増えているとも聞く。障害の状況も多様化する中、対象の生徒への指導には根気を要することもあるかと思うが、特別支援学校とも連携を密にしながらか、引き続き生徒の自立に向けた支援をお願いしたい。</li> <li>○ 今後も、生徒と学校と保護者が一体となって、よりよく指導を継続して欲しい。</li> </ul>
	一貫性のある支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本人や保護者との継続的な相談や懇談等を通して、就学や進路に関する合意形成を図っている。</li> <li>○ 校内支援体制の充実と教員の指導力の向上に向けて、特別支援学校のセンター的機能を活用している。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デイリーノートを通じて日常的に保護者と情報共有するとともに、定期的な懇談を通じて見通しを持った連携を図っている。</li> <li>○ 県立特別支援学校と日常的に連携しながら、適宜、来校を要請し、指導の在り方や家庭へのかかわり等について助言をいただき、指導方法等の工夫・改善にあたっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先生方の不調和を生徒はすぐに感じ取る。コロナ禍で大変かと思いますが、健康に留意され、生徒への指導にあたっていただきたい。</li> </ul>
教職員の資質・能力の向上	資質と実践的指導力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職責と使命を深く自覚し、法令の遵守はもとより、高い倫理観や公正中立な立場の保持、職場の活性化に努めている。</li> <li>○ 自らの職責やキャリアステージに応じた課題への対応能力の向上のため、自主的・主体的に研修に取り組んでいる。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員会議や校内研修の機会を活用し、「信頼確保と規律の保持」に関する県の通知に常立ち返りながら、自覚と意識の継続を図っている。</li> <li>○ 面談や日常的な関わりの中で、適宜、評価しながら、対応能力等の育成に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中一貫教育の観点から、義務教育9年間で子どもたちの成長を図ろうとされていることがよく分かる。小中の先生の連携により、子どもたちの学力保障の試みを引き続き行ってほしい。</li> </ul>
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 適切な指示や発問、説明、板書の構造化を意識した指導方法の工夫・改善に努めている。</li> <li>○ 生徒の興味・関心等に応じた教材選択や学習課題の設定等により、主体的な学習意欲・態度の育成に取り組んでいる。</li> <li>○ 家庭での学習課題を適切に設定し、方法についてアドバイスを行うなど、授業と関連づけた学習習慣の定着に取り組んでいる。</li> </ul>	概ね良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育の観点から、「わかる授業」とは「指示のわかる授業」であることを共通理解し、学習に向かう姿勢を維持できるように取り組んでいる。</li> <li>○ 各学期の中間テストを徹底し、日頃の小テストや単元テスト等を重視することにより、継続的な学習の意義について自覚を高める取組を進めてきた。</li> <li>○ 家庭学習の質の向上に向けた取組についてさらに工夫を図る必要がある。</li> </ul>	
	学級経営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒一人一人に温かくゆとりある心で接し、生徒の安心感を高める工夫を図っている。</li> <li>○ 学級活動や生徒会活動等を通して、主体的に課題を見つけて解決しようとする実践的な態度の育成に取り組んでいる。</li> <li>○ 生徒の小さな変化を敏感に察知し、情報交換や連携を密に多面的な理解を通して組織的に指導している。</li> <li>○ 学校や地域行事等への主体的な参加を通して、自律性と責任感を自覚し、生き方を見つめ考える力の育成に取り組んでいる。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学年会や生徒指導兼不登校部会、職員会議等を通して、学習・生活上の情報交換を密に行い、生徒の多面的理解と情報共有に取り組むとともに、生徒が自律性を高められるよう相談体制を整え、受け止めと投げかけを繰り返しながら指導にあたっている。また、SSWによる保護者との相談対応等、家庭への支援体制も整いつつある。</li> <li>○ コロナ禍の影響で地域行事への参加が難しかったが、民生・児童委員との連絡会等を通じて、生徒への働きかけを依頼するなど、地域の中で生徒が育つ環境づくりを進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒アンケートの結果によれば、「困ったときに相談できる先生がいますか」という問いに7割の生徒が肯定的な回答を寄せているが、その他3割の生徒の状況が気になる。相談体制や日頃の声かけ等をさらに工夫いただきたい。</li> <li>○ マスクにより教師の表情を読み取ることが難しいとの話があった。子どもの表情の見極めも難しいと思うので声の質やトーン、言葉選びなどに工夫してください。</li> <li>○ 少人数だからこそ生徒とのコミュニケーションが図りやすい利点を活かし、今後も1人1人と向き合う教育をお願いしたい。また、同時に先生の個性も活かし、先生と生徒がお互いに信頼できる環境づくりもお願いしたい。</li> </ul>
協働体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者や地域の方々の意見や要望等に真摯に対応するとともに、外部人材の積極的な活用を図っている。</li> <li>○ アレルギー発症時の救急処置のため、家庭や関係機関等との連携を含む校内救急体制を構築している。</li> <li>○ 危険等発生時に適切な対応を行うため、定期的に研修や訓練を実施し、必要に応じて対応マニュアルの改善を図っている。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校評価に係る保護者アンケートをこれまでの年1回から年2回に増やし、学校経営に生かしている。また、「やぶ・ふるさとキャリア教育」の取組を通して、地域とのつながりを深めている。</li> <li>○ アレルギー発症や危険等発生時の対応を常に確認しながら、危機意識を高めている。校地や校舎内の死角を意識するとともに、外来者に対する大きなあいさつを励行した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者や地域の諸団体との連携は、成果として多岐にわたりに表出しているように感じる。今後も、「やぶ・ふるさとキャリア教育」等の取組の拡充を図り、地域とのつながりを深めていただくとともに、生徒の幅のある人間形成に役立ててほしい。</li> </ul>	
組織づくり	問題行動や不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者、SC等と連携し、生徒の日常生活における変化に気を配り、悩みを積極的に受け止める教育相談体制を構築している。</li> <li>○ 授業づくりや集団づくり、適切なかかわり等を工夫し、生徒にとって「魅力ある学校づくり」を推進している。</li> <li>○ 課題等を抱える生徒の対応にあたっては、SSWの助言や協力を得て、関係機関等と連携し対応している。</li> </ul>	良好	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ SCやSSWを交えた毎週の生徒指導部会兼不登校部会での生徒の状況に関する情報交換と対応協議が、問題行動や不登校の未然防止、早期対応につながっている。また、こども育成課や子ども家庭センターに必要に応じて相談し、迅速な対応を図っている。</li> <li>○ 定期的実施する「生活アンケート」の回答内容を日頃の生徒とのかかわりに生かしながら、学級経営を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 感染予防や拡大防止対策で、マスクの着用、消毒、ソーシャルディスタンス、不要・不急の外出の自粛等、制限が多い日常の中で、生徒のストレスの発散にも配慮しながら、生徒への対応をお願いしたい。</li> <li>○ 明るく素直な生徒が多い反面、自信をもって発言したり行動したり、積極的に自分をアピールできない生徒が多いのではないかと危惧する。改善のための指導の工夫をお願いしたい。</li> <li>○ 今後も家庭と地域を密接に関係し、特に家庭とは相談しやすい環境づくりに努めていただきたい。</li> </ul>